

平成26年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価
報告書

(平成25年度事業対象)

平成27年2月

台東区教育委員会

目 次

1	趣 旨	1
2	点検及び評価とは	2
3	点検及び評価の構成	2
4	「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」 の位置づけ	4
5	教育施策評価の方法	5
6	教育施策評価の結果	7
	< 学びのキャンパス台東アクションプラン >	
	・ 体験的な活動を通じた健やかな体づくりの推進	8
	・ 将来への夢と希望を育むこころざしの育成	12
	< 生涯学習推進プラン >	
	・ 生涯学習の基礎を養う	16
	・ あらゆる世代の多様な学習を振興する	20
7	学識経験者による意見	24
8	教育委員会の活動状況	32

1 趣 旨

台東区教育委員会では、教育を取り巻く現状を踏まえ、「教育目標及び基本方針」にて今後の教育の方向を掲げています。さらに、台東区基本構想及び長期総合計画を踏まえて「学校教育ビジョン」、「生涯学習推進指針」を策定し、その具体的な取り組みを「学びのキャンパス台東アクションプラン」並びに「生涯学習推進プラン」で示すことにより、台東区基本構想に掲げる「にぎわい いきいき したまち 台東」の実現に努めております。

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成20年4月からすべての教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

台東区教育委員会では、平成20年度から主要な施策や事務事業の取り組み状況について点検及び評価を毎年実施することとし、ここに平成26年度の点検及び評価の実施結果を報告書にまとめました。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

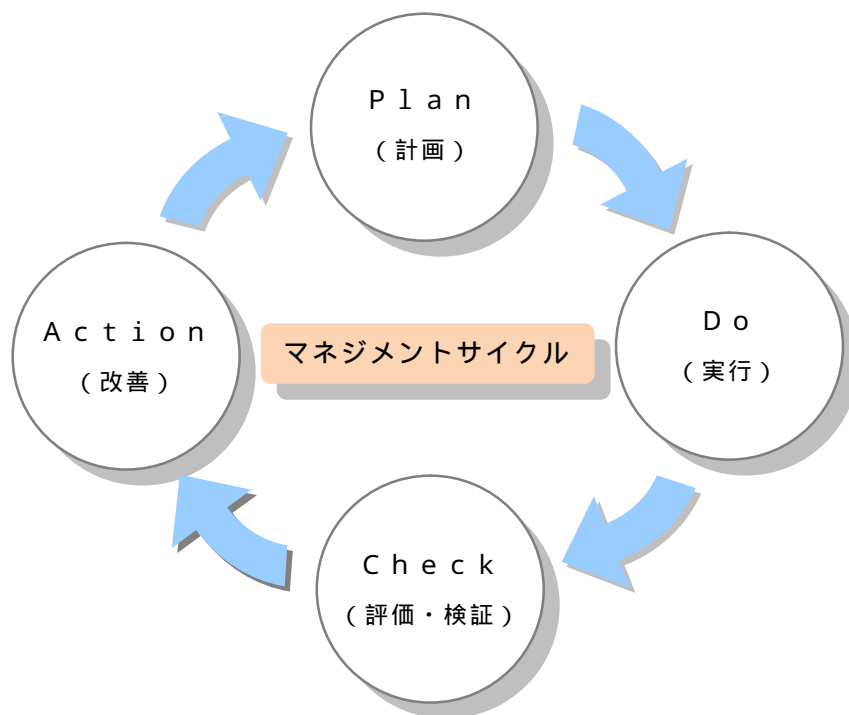
第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価とは

これまでも施策や事務事業を「計画（Plan）」するときには、必要な検討を行い「実施（Do）」してきましたが、時代を取り巻く環境が大きく変化し、区民ニーズも多様化・複雑化する中、既存の施策や事務事業の効果が現時点でも十分に現れているか、費用対効果の面で予算は有効に活かされているかなどについて客観的に「評価・検証（Check）」を行うとともに、着実に「改善（Action）」を図っていく必要があります。

点検及び評価は、Plan - Do - Check - Action というマネジメントサイクルのCheck - Action に相当するもので、実施した施策や事務事業を客観的に評価し、その結果を次年度に活かしていく手段となります。点検及び評価により明らかになった課題を、迅速に次年度以降の事務事業等に反映させることで、より合理的・効果的な教育行政の運営を果たしていくこととなります。



3 点検及び評価の構成

(1) 実施方法

台東区においては、今年度、教育委員会の事務も含めた個々の事業を対象に行う事務事業評価と台東区長期総合計画の施策を対象として行う施策評価等からなる行政評価（ ）を実施しています。

平成26年度の「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」については、客観性を確保するために、台東区が実施した行政評価を活用するとともに、教育振興のための施策に関する基本的な計画として位置づけられている「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」に基づき実施しました。

行政評価とは、社会情勢やニーズの変化に対応した弾力的な区政運営をめざすため、人材や予算といった経営資源が有効に活用されるように、政策や施策、事務事業を定期的に検討する仕組みです。

(2) 点検及び評価の対象

「学びのキャンパス台東アクションプラン」

4つの【施策目標】の中から「施策目標1 これからの社会を生き抜く力を育成する」、「施策目標2 新たな価値を創造する人材を養成する」の2つを選択し、さらに各施策目標中の【施策の方向】を1つずつ選択して、平成25年度中に取り組んだ事務事業について点検及び評価を行いました。

「施策の方向： 体験的な活動を通じた健やかな体づくりの推進」

「施策の方向： 将来への夢と希望を育むこころざしの育成」

「台東区生涯学習推進プラン」

6つの【施策の目標】の中から2つを選択し、平成25年度中に取り組んだ事務事業について点検及び評価を行いました。

「施策の目標： 生涯学習の基礎を養う」

「施策の目標： あらゆる世代の多様な学習を振興する」

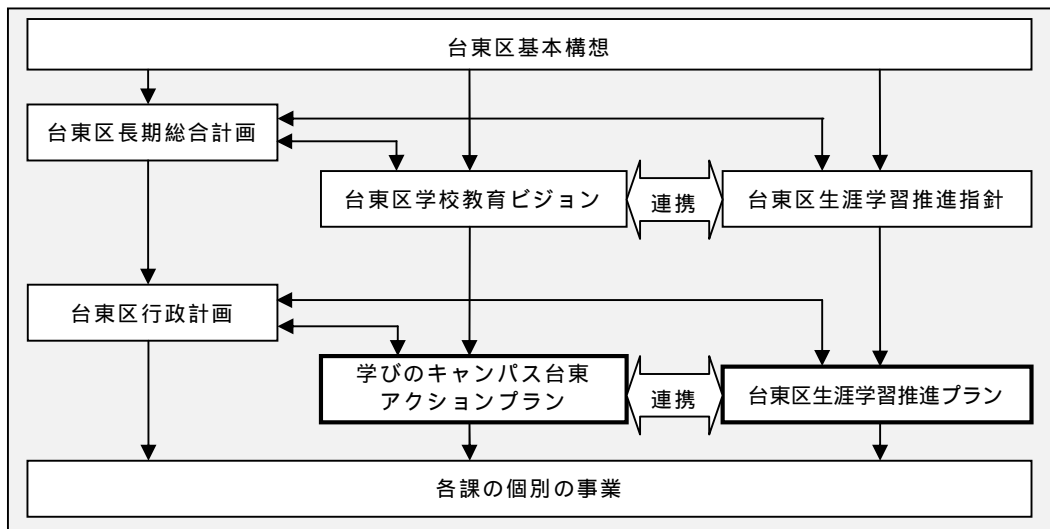
(3) 学識経験を有する者の知見の活用

点検及び評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方のご意見をお聞きする機会を設け、様々なご意見、ご助言をいただきました。

学識経験者

氏名	所属等
浦井 正明	寛永寺長藹
有村 久春	東京聖栄大学教授
小松 郁夫	常葉大学教職大学院教授

4 「学びのキャンパス台東アクションプラン」及び「生涯学習推進プラン」の位置づけ



「台東区学校教育ビジョン」、「台東区生涯学習推進指針」、「学びのキャンパス台東アクションプラン」、「台東区生涯学習推進プラン」は、教育基本法第17条第2項に基づいて策定する、台東区の「教育振興のための施策に関する基本的な計画」として位置づけられています。

【教育目標】

台東区教育委員会は、子どもたちが心身ともに健康で、人権尊重の精神を基調としつつ人間性豊かに21世紀を創造する人材に成長することを願い、

**互いの人格を尊重し、思いやりの心と規範意識をもつ人
個性や豊かな創造力、健やかな体をもち、自ら学び、考え、行動する人
台東区の歴史・文化に誇りをもち、地域社会を愛し、発展に貢献できる人**

の育成に向けた教育を充実する。

また、だれもが生涯にわたり自己実現に生きがいを見出し、学びを継続し、心豊かに人生を送ることのできる生涯学習社会の実現を図る。

そして、台東区基本構想に掲げる「にぎわい いきいき したまち 台東」の実現を目指し、区民憲章を実践し、にぎわいと活力のある地域社会の形成と個性豊かな下町文化の継承と発展に努める。

5 教育施策評価の方法

(1) 教育施策評価シート

台東区教育委員会が実施している施策を定期的に客観的な基準で採点し、評価するために、教育施策評価シートを用いています。それぞれの施策について、実績の推移、費用対効果、組織・人員の3つの視点と総合評価から課題等を抽出し、事務事業評価とも関連づけながら改善の方向性をまとめました。

(2) 教育施策評価シートの構成

施策名

今年度の点検及び評価の対象となった【施策の方向】及び【施策の目標】を記載しています。

現状と課題

【施策の方向】及び【施策の目標】における現状と課題について、平成25年度末時点で記載しています。

基本的な考え方と施策の方向

【施策の方向】及び【施策の目標】の基本的な考え方と具体的な取り組みについて記載しています。

施策の執行状況

【施策の方向】及び【施策の目標】の執行状況（進捗度）について、簡潔に記載しています。

〔施策〕

- ・【施策の方向】及び【施策の目標】の中で、構成する主要な施策事業を記載しています。

〔事業名〕

- ・主な事務事業を記載しています。

〔指標・計画目標〕

- ・事業の実施による効果が客観的に数値等で測定できるよう項目を設定し記載しています。

〔事業実績〕

- ・指標・計画目標に対する各年度の実績を記載しています。

事務事業評価の結果

〔事業名称〕

- ・【施策の方向】及び【施策の目標】に係るものの中で、台東区で実施した事務事業評価の内容を記載しています。

〔必要性〕

区民ニーズの変化や官民の役割分担という視点から評価

- 4：ニーズは増加している。
- 3：ニーズには大きな変化はない。
- 2：ニーズはやや減少傾向にある。
- 1：ニーズは大幅に減少している。

〔効率性〕

人的・物的資源の有効活用という視点から評価

- 4：コストや効率性は改善している。
- 3：コストや効率性に大きな変化はない。
- 2：コストや効率性に一部改善の余地がある。
- 1：コストや効率性に抜本的改善を要する。

〔手段の適切性〕

現時点における手段が適切であるかどうかという視点から評価

- 4：手段は適切である。
- 3：検討事項はあるが、手段はおおむね適切である。
- 2：手段は一部見直しが必要である。
- 1：手段は抜本の見直しが必要である。

〔目的達成度〕

事業目的の達成に向けて、事業が良好に進捗しているかどうかという視点から評価

- 4：成果指標の目標は達成されている。
- 3：成果指標の目標はおおむね達成されている。
- 2：成果指標の目標は一部未達成である。
- 1：成果指標の目標を大きく下回っている。

〔今後の方向性〕

上記4つの視点を踏まえ、今後の事業展開を5種類で評価

「拡大」、「改善」、「維持」、「縮小」、「廃止・終了」

〔25年度決算額〕

- ・25年度決算額を記載しています。

〔25年度事務事業コスト〕

- ・25年度事務事業コストを記載しています。

執行状況の評価

【施策の方向】及び【施策の目標】の平成25年度の実績や現在の状況を踏まえて、実績、効率性やコスト、組織・人員の各視点から、評価を行ない、施策の円滑な実施のために必要な課題等を記載しています。

総合評価

「執行状況の評価」での各視点からの評価を踏まえて、実施状況の評価について総合的に記載しています。

今後の方向性

執行状況の検証、総合評価を踏まえ、教育委員会として取るべき今後の対応及び改善策を記載しています。

(3) 主な事業の取り組み

教育施策評価シートにまとめた施策のうち、主な事業の取り組みについて、現状や課題、今後の取り組み等を具体的にまとめました。教育施策評価シートに加え、施策の中心となる個別事業の評価として掲載しています。

6 教育施策評価の結果

施策評価（シート）の結果につきましては、次（頁以降）のとおりです。

平成26年度 教育施策評価シート

施 策 名	体験的な活動を通した健やかな体づくりの推進				
1. 現状と課題 (平成25年度末)					
<p>【現状】 心身のバランスのとれた発育・発達を促すために、運動や遊び、スポーツ、自然体験活動等を通して体力向上や健康づくりに向けた取組みを進めてきた。また、健全な食生活を実践することができる子どもを育てるために食育への取組みや、自分自身の身を守るための安全教育を実施してきた。 連合運動会や連合陸上競技大会など、多くの生徒が参加できる場があり、林間学園などの自然体験についても、現地での集団生活を通して、心身を健全に鍛えることができています。また、食育に関しても、地産地消を推進しており、食育教材としてより良いものを提供している。</p> <p>【課題】 身近で気軽にできるスポーツとしてラジオ体操を行っているが、地域で自主的に運営されるため、運営者の高齢化や後継者不足の解消が課題となっている。また、子どもたちの体力を向上させるために、幼児期から運動に親しむ機会を設け、運動することが習慣になるようなきっかけづくりを今後も充実させていくことが求められている。 自然体験の場として林間学園等を実施しているが、学校行事の影響により実施希望日が重複する傾向があるため、もっと柔軟に実施していくことができるよう改善が必要である。 食育の推進に関しては、食育の知識を広めるため、幼児の保護者への啓発方法の充実やすべての学校での計画的な取組みが求められている。</p>					
2. 基本的な考え方と施策の方向					
<p>(体力の向上と健康づくりの推進) 幼児期から運動に親しむ態度を育成し、基礎的な身体能力の向上と健康づくりを推進する。</p> <p>(自然体験活動の充実) 移動教室や自然の中での体験を通して、健やかな体づくりを進めるとともに、自然や環境に配慮する意識を高め、自然を愛する心を養う。</p> <p>(給食の充実と食育の推進) 学校園の給食の充実に努め、家庭と連携し、子どもたちの食生活を見直し規則正しい生活習慣の定着を図る。</p> <p>(健康教育・安全教育・防災教育の推進) セーフティ教室の実施など健康教育、安全教育、防災教育の取組みを推進する。</p>					
3. 施策の執行状況					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			23年度	24年度	25年度
体力の向上と健康づくりの推進	体力・運動能力、運動習慣等調査の実施	実施 全26小中学校	26校	26校	26校
	連合運動会・連合陸上競技大会	小学校運動会6年生全員参加、 中学校連合陸上競技大会650人参加	1,129人 658人	1,095人 642人	1,044人 620人
	運動に親しむ態度の育成	実施 全26小中学校	26校	26校	26校
	スポーツ推進委員	事業数28事業	22事業	32事業	29事業
	ラジオ体操会	体操会場数143箇所	142箇所	142箇所	142箇所
	プール指導の充実	該当校(8学級以下の小学校)実施	4校/4校	4校/4校	4校/4校
自然体験活動の充実	(小)日光林間学園	全校実施 (対象:6年生)	19校 1,102人	19校 1,074人	19校 1,020人
	(中)オリエンテーション	希望校全校実施 (対象:1年生)	4校 329人	4校 376人	4校 379人
	(中)林間学園	希望校全校実施 (対象:全学年)	7校 647人	7校 578人	7校 645人
	(小)移動教室	全校実施 (対象:5年生)	19校 1,077人	19校 1,043人	19校 1,028人
	(中)移動教室	全校実施 (対象:2年生)	7校 788人	7校 777人	7校 792人
	幼児期の自然体験の充実	自然体験の充実 12園が年間2回以上実施	24回	24回	25回
給食の充実と食育の推進	学校園の給食の充実	推進 地域ふれあい給食参加者数	1,805人	1,790人	1,864人
	栄養教諭・栄養士との連携による食育の推進	推進 全26小中学校実施	26校	26校	26校
	幼児期における食育の充実	保護者への啓発 全12園実施	12園	12園	12園
健康教育・安全教育・防災教育の推進	学校園の安全教育の推進	安全教育の推進 年11回全学校園で実施	全校園	全校園	全校園
	災害発生時に主体的に適切な行動ができる能力を培う学習の推進	予告なしの訓練・様々な災害を想定した訓練の実施年間2回以上	76回	76回	78回
	セーフティ教室の実施	実施 全26校各1回以上	34回	29回	38回

4. 事務事業評価の結果 (予算措置のある事業のみ)

事業名称	必要性	効率性	手段の適切性	目的達成度	今後の方向性	25年度 決算額 (千円)	25年度 事務事業 コスト (千円)	25年度 事務事業 コスト割合 (%)
連合運動会・連合陸上競技大会(小・中)	4	3	3	3	維持	3,662	4,942	12.2%
スポーツ推進委員	4	3	3	4	維持	3,699	6,682	16.5%
ラジオ体操会	3	3	3	4	維持	1,303	3,008	7.4%
プール指導の充実	3	3	3	4	維持	169	339	0.8%
(小)日光林間学園	3	3	3	4	維持	1,124	3,254	8.0%
(中)オリエンテーション	3	3	3	4	維持	2,481	2,907	7.2%
(中)林間学園	3	3	3	3	維持	426	1,704	4.2%
(小)移動教室	3	3	3	3	維持	7,916	9,620	23.7%
(中)移動教室	3	3	3	4	維持	5,498	8,054	19.9%
学校園の給食の充実	3	3	3	3	維持	(202,785)	(209,603)	
						26,278	40,510	100%

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	連合運動会や連合陸上競技大会への参加者は多く、日々の体育的な活動の発表の場として実施することができている。 林間学園や移動教室も全校が参加できており、自然の中での体験活動や集団生活を通して相互の交流を図り、友情を育みながら心身を鍛える契機となっている。 学校園の給食の充実は、地域ふれあい給食などでの会食を通して食育の推進に大きく寄与している。 安全教育も、学校園で知識を深めるだけでなく、訓練等において自分で安全を守る場を設け、推進している。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	連合陸上競技大会については、東京オリンピック・パラリンピックや定期的な施設改修などにより使用する会場の確保が厳しい状況が続いている。 林間学園や移動教室では、バスの借上げ契約などを一括で行うなどして、コスト削減に努めている。 充実した給食を通して食体験や食育を進めることが円滑にできている。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	自然体験を行う場合は、児童・生徒が安心して参加できるよう、関係機関との調整、教員実地踏査などを行い、安全に十分配慮している。ただ、幼児期の自然体験に関しては、雨天中止などで十分に実施出来ていない状況もある。 また、連合運動会や連合陸上競技大会の開催にあたっては、多くの準備を必要とし、時間配分や人的負担は非常に大きいのが現状である。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)

B	事業の実績やコストについては、各事業実施担当者の努力によりどの事業においても全体としては概ね順調に行えている。ただし、事業によっては多くの準備作業が必要となるため、人的な負担が大きく、改善が必要な問題があるため、今後課題の解決に向けて努めていく必要がある。さらに、幼児期の自然体験では雨天中止にするのではなく、延期して実施できるような体制を作る必要がある。
A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	

7. 今後の方向性

体力の向上と健康づくりの推進については、幼児期から遊びを通して体を動かすことの楽しさを実感させながら、運動に親しむ習慣を身に付けつつ、園・学校での運動・スポーツの機会を充実させ体力向上を目指していく。また、体力・運動能力等の調査を活用し、各自一人一人がその結果に基づき自らの課題を認識し、さらなる体力向上に取り組む環境を整えていく。

自然体験活動の充実については、各校が無理のない日程で実施できるよう実施時期などを検討し、参加者を増やしていくことで自然の中での体験を通して健やかな体づくりを進めるとともに、自然や環境に配慮する意識を高め、自然を愛する心を養う。各園では、より多くの体験の機会を提供できるよう体制を整え、充実した事業となるよう努めていく。

給食の充実と食育の推進については、子どもたちには東京の地産地消の食材を提供し、今後とも安全でおいしく楽しい給食を提供していく。また、栄養士により各校特色ある献立で給食を実施し、献立検討会にて情報交換するとともに、給食献立の見直しや研究等を今後も実施していく。さらに、食育リーダー研修会などでの知識や経験を各学校園に広める場を設けていく。

健康教育・安全教育・防災教育の推進については、セーフティ教室の実施や安全教育の充実などで、災害の種類・状況・程度に応じた身の安全を確保する知識を深めるとともに、自らの判断で安全を守る実践的行動力を身に付ける機会を充実させていく。

< 体験的な活動を通じた健やかな体づくりの推進の主な事業の取り組み >

「自然体験活動の充実」

(1) アクションプランの記載内容

移動教室や自然の中での体験活動を通して、健やかな体づくりを進めるとともに、自然や環境に配慮する意識を高め、自然を愛する心を養う。

(2) 取り組み状況

中学校オリエンテーション

実施を希望する中学校の1年生を対象に、集団行動を通して、自ら進んで行動し、規律を守る能力を養い、中学生としての自覚をもたせている。

宿泊施設	日程	対象	実施校数	参加生徒数
少年自然の家霧ヶ峰学園	2泊3日	希望校の1年生	4校	379人
主な活動内容				
車山登山、蛙原散策、合唱会、スポーツ・レク				

中学校林間学園

実施を希望する中学校の全学年の希望者を対象に、異学年集団での生活体験を通して相互の交流を図り、友情をはぐくみながら心身を鍛えている。

宿泊施設	日程	対象	実施校数	参加生徒数
少年自然の家霧ヶ峰学園	3泊4日	希望校の希望者	全校	645人
主な活動内容				
部活動合宿、勉強合宿				

小学校移動教室

小学校の5年生を対象に、雄大な自然に親しみながら土地の歴史にふれるとともに、地域に生息する動植物や地形の観察など、都会では味わえない学習をする。また、集団生活の中で寝食をともにすることにより、社会性の育成と豊かな情操を養っている。

宿泊施設	日程	対象	実施校数	参加児童数
少年自然の家霧ヶ峰学園	2泊3日	5年生	全校	1,028人
主な活動内容				
蛙原散策、車山登山、八島湿原散策、野外炊飯、キャンプファイヤー、乳搾り体験、ソーセージ作り、鱒つかみどり、紙すき体験、味噌仕込み体験、工場見学				

中学校移動教室

中学校の2年生を対象に、雄大な自然とふれあい、理科・社会・美術・体育などの現地学習を行う。また、集団生活を通して望ましい人間関係を育成するとともに、規律を守り、責任感のある生活態度をはぐくんでいる。

宿泊施設	日程	対象	実施校数	参加生徒数
少年自然の家霧ヶ峰学園	3泊4日	2年生	全校	792人
主な活動内容				
車山登山、霧ヶ峰ハイキング、鷲ヶ峰登山、オリエンテーリング、野外炊飯				

(3) 課題

小学校移動教室、中学校移動教室及び中学校オリエンテーションは、1学期に少年自然の家霧ヶ峰学園で実施しているため、小学校移動教室は、2校または3校が同時に実施することで、実施にかかる日数の効率化を図っている。

しかし、1学期は、中学校では中間考査、体育大会、修学旅行及び期末考査があり、小学校でも運動会を実施している学校があるなど学校行事が多く、また、お祭りなどの地域行事も多いため、学校行事と地域行事を考慮した日程調整をする必要がある。

(4) 今後の取り組み

小学校移動教室の実施時期を延長することで、日程的な余裕が生まれ、日程調整が図りやすくなる。また、小学校移動教室の実施形態を単独校または2校同時までとすることが可能となり、少年自然の家霧ヶ峰学園での部屋割り、入浴時間、体育館及び運動場など施設利用での学校間の調整も行いやすくなる。

小学校からも、小学校移動教室の実施形態について、「実施時期を延長して、2校までの同時実施にして欲しい。」との要望があるため、霧ヶ峰の気候等を考慮して、小学校移動教室は、1学期に2学期の10月上旬までを加えた実施時期に拡充を図る。

平成26年度 教育施策評価シート

施 策 名	将来への夢と希望を育むこころざしの育成				
1．現状と課題 (平成25年度末)					
【現状】					
<p>自分の将来に対して目標をもち、伝統文化の理解と国際社会や異文化への理解を深め、将来、世界で活躍する人材を育むために、副読本「こころざし高く」の活用や、国際事情に触れ視野を広げる機会を設ける国際理解教育を進めている。</p> <p>こころざし教育の推進では、先人の功績や言行等から編纂した副読本「こころざし高く」を小学校1～3年、4～6年、中学校1～3年用及び教師用指導書を作成して、各学校に配布し各学校で活用している。また、幼児期からのこころざし教育の大切さについて、幼稚園・保育園・こども園に講師派遣等を行い講演・懇談を行っている。</p> <p>国際理解教育の観点からは、小学校・中学校へ外国人英語指導員等を派遣することで、児童・生徒がネイティブの英会話や発音を学び、英語能力が向上することのみならず、国際文化に親しむことができている。また、英語発表会を通して英語の学習成果を発表することで学習意欲を高めるとともに、生徒や学校間の交流を深め、国際理解教育の充実を図っている。</p>					
【課題】					
<p>こころざし教育を推進するために、副読本「こころざし高く」を充実させ活用しているところであるが、児童・生徒に対し、特定の教科や場面、時間を問わずに機会を捉えてこころざし教育を実施することができるよう、「こころざし教育アドバイザー」をさらに活用していく必要がある。</p> <p>国際理解については、中学生をデンマークのグラスサックセ市に派遣し、現地での交流体験報告会に加え、「派遣を通じての成長」など発表の充実を行ったが、今後は小中学校の児童・生徒・保護者の参加者を増やす取り組みが求められる。また、英語発表会でも参加者数を増やしていきたいが、会場の選定や時間・実施方法の見直しが必要である。</p>					
2．基本的な考え方と施策の方向					
<p>(こころざし教育の推進) 子どもたちに将来への夢や希望をもち、社会に貢献するこころざしを育むよう、先人の生き方を学ぶ取り組みを充実させる。</p> <p>(国際理解教育の推進) 異文化に対する理解と日本人としての誇りをもつ教育の充実に努め、外国人観光客・海外との交流を進める。</p> <p>(新たな価値を創造し主導できる人材の養成) 高校や大学などと連携し科学や芸術、スポーツ分野などで専門的な議論を重ねる機会を設け、将来の日本を担い、世界に飛躍する人材の育成を図る。</p> <p>(体験を重視した精神的・身体的なたくましさの育成) 地元の地域社会、あるいは雄大な自然環境の中で、武道や心身を鍛える活動を進め、精神的・身体的なたくましさを育成する。</p>					
3．施策の執行状況					
施 策	事 業 名	指標・計画目標	事 業 実 績		
			23年度	24年度	25年度
こころざし教育の推進	こころざし教育の推進	拡充 全26小中学校実施	26校	26校	26校
	こころざし教育副読本の活用(指導課)	道徳の時間等での活用全校実施 読物内容の充実	全校実施 各学年5つ	全校実施 各学年5つ	全校実施 各学年6つ
	こころざし教育副読本の活用(教育支援館)	副読本配布 講師派遣	2,813冊 -	3,548冊 -	2,985冊 12回
	地域を学ぶ学習の充実	地域を学ぶ学習 全26小中学校実施	26校	26校	26校
国際理解教育の推進	中学生海外短期留学派遣	事後報告会参加者数 150人	-	-	136人
	小学校英語活動の充実	ALT全校配置 派遣日数	19校 1,213日	19校 1,258日	19校 1,075日
	中学校への外国人英語指導助手の派遣	全校配置 派遣日数	7校 447日	7校 466日	7校 421日
	中学校英語発表会	全校参加 参加者数	7校 90人	7校 90人	7校 83人
新たな価値を創造し主導できる人材の養成	切磋琢磨する機会	充実 全26小中学校実施	26校	26校	26校
体験を重視した精神的・身体的なたくましさの育成	中学校における武道の授業	武道の授業の実施 全7中学校実施	7校	7校	7校

4. 事務事業評価の結果 (予算措置のある事業のみ)

事業名称	必要性	効率性	手段の適切性	目的達成度	今後の方向性	25年度決算額(千円)	25年度事務事業コスト(千円)	25年度事務事業コスト割合(%)
こころざし教育副読本の活用(小学校・中学校)	3	3	3	4	維持	8,963	9,816	17.8%
中学生海外短期留学派遣(国際理解重点教育)	3	3	3	3	維持	9,141	12,551	22.7%
小学校英語活動の充実	4	3	3	3	維持	23,937	24,364	44.2%
中学校への外国人英語指導助手の派遣(英語教育の充実)	4	3	3	4	維持	7,956	8,213	14.9%
中学校英語発表会	3	3	3	3	維持	67	238	0.4%
						50,064	55,182	100%

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	こころざし教育の推進に関しては、副読本の配布、講師派遣等を通して学校教育を支援できている。また、国際理解教育も様々な事業を通して着実に児童・生徒が異文化への理解を深める契機となっており、事業は順調に推移している。 切磋琢磨する機会についても、合唱コンクールなどを通して互いに切磋琢磨し充実感を味わったり、スポーツを通して競い合ったりと、学校教育の現場で常に設けることができている。また、中学校における武道の授業については、平成24年度より授業が必修化となったことに伴い、武道を通して精神的な強さを身に付け、他者に対する思いやりと感謝の心を育成することができている。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	小学校英語活動の推進や中学校英語教育の充実を図るため、外国人英語指導員の配置を業務委託することで人材を確保しており、生きた英語を学ぶ良い機会となっている。また、こころざし教育の副読本配布も道徳の主教材となるだけでなく、様々な機会を捉えこころざし教育を行うことが出来るため、順調に事業を実施している。 切磋琢磨する機会や武道の授業には、コストがかかることもなく、機会の充実・安全に努めている。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	こころざし教育の副読本の充実や切磋琢磨する機会、武道の授業に関しては、事業上特に問題もなく概ね順調である。 英語活動の充実についても適切な英語授業を実施できている。ただ、中学校英語発表会について、事業への参加需要が高いものの、会場規模や実施時間の制限により、人数を増やすことが困難な状況なため、内容改善を行う必要がある。

6. 総合評価 (上記5の ~ に基づいた総合評価)

A	中学校英語発表会については、実施方法などの見直しを図り、参加需要を満たすよう、今後、会場の選定や開催時間の変更などの課題の解決に努めていく必要があるなど、改善すべき事項もあるが、こころざし教育の推進、異文化に対する理解、国際社会に貢献できる人材の育成、切磋琢磨する機会、武道の授業など、各事業とも施策の執行状況は概ね順調に推移している。
A 順調である	
B 一部課題がある C 課題がある	

7. 今後の方向性

こころざし教育の推進については、小・中学校において、先人の功績や言行等から編纂した児童・生徒用副読本「こころざし高く」が、より有効に活用されるよう、講師派遣等を通して学校教育を支援していくとともに、子どもたちが将来への夢や希望をもち、社会に貢献するこころざしを育むことができるような人材育成に一層の充実を図っていく。

国際理解教育の推進については、生きた英語に直接触れることができるよう、今後とも小・中学校に英語指導におけるノウハウを有する民間業者をととして外国人英語指導員を教育現場に配置し、英語の習得や国際感覚を養っていく。また、児童・生徒が、異文化に対する理解と日本人としての誇りをもてるような教育の充実に努め、コミュニケーション能力や英語の習得意欲を高めていくことができるよう支援を行っていく。

新たな価値を創造し主導できる人材の養成については、小・中学校において、科学・芸術・スポーツといった様々な分野において、互いに切磋琢磨し競い合う機会を設け、各学校においてもその機会をさらに充実できるよう指導・助言を行っていく。

体験を重視した精神的・身体的なたくましさの育成については、武道を通して運動能力の向上を図るとともに、精神的、身体的な強さを身に付けることで心身を鍛え、他者に対する思いやりと感謝の心を育成していく。そのために、武道の技術指導に加え、安全に配慮した指導及び礼儀に関する指導も合わせて充実させ、実施していく。

< 将来への夢と希望を育むところざしの育成の主な事業の取り組み >

「中学生海外短期留学派遣（国際理解重点教育）」

(1) アクションプランの記載内容

夏季休業期間中に区立中学校2年生を海外（デンマーク・グズサクセ市）に短期留学させ、現地校における授業体験、施設視察、その他現地の生徒やその家族と生活・学習等の相互交流を通して、国際社会に貢献できる区民を育成する。

< 事後の報告会参加者合計数 > 平成25年度 目標100名

(2) 取り組み状況

事前学習（10回）

平成25年7月	4日	第1回	・結団式
	7月13日	第2回	・オリエンテーション・デンマークについて
	7月22日	第3回	・体験者の話 ・日本の歌 ・日本文化の紹介
	7月26日	第4回	・台東区について ・事前学習発表会 ・日本の歌 ・ホームステイに関すること
	7月30日	第5回	・日本文化の紹介 ・英会話 ・日本の歌
	8月1日	第6回	・日本文化の紹介 ・英会話 ・日本の歌
	8月2日	第7回	・日本文化の紹介 ・デンマーク語講座 ・交流プログラム
	8月5日	第8回	・デンマーク語講座 ・交流プログラム ・日本文化の紹介
	8月13日	第9回	・最終確認 ・交流プログラム
	8月19日	第10回	・報告会準備 ・出発式

短期留学（平成25年8月21日～8月27日 5泊7日）

平成25年8月22日	グズサクセ市スティゴースクール訪問 グズサクセ市表敬訪問
8月23日	グズサクセ市スティゴースクールにて交流 ホームステイ（1泊目）
8月24日	ホストファミリーとの交流 ホームステイ（2泊目）
8月25日	ホストファミリーとの交流 フェアウェルパーティ

事後学習（５回）

- 平成 25 年 8 月 29 日 第 1 回 ・礼状作成 ・報告書作成準備
8 月 31 日 第 2 回 ・報告会準備 ・報告書作成
9 月 7 日 第 3 回 ・グループ発表の内容確認 ・報告会準備
9 月 14 日 第 4 回 ・報告会最終リハーサル
9 月 28 日 第 5 回 ・報告会

報告会

平成 25 年 9 月 28 日（土）15：00～16：30 桜橋中学校（体育館）
参加者：106 名（派遣生徒 17 名、小学生・中学生・保護者の参観者 89 名）
25 年度の数値目標の報告会参加者 100 名は達成された。

発表項目：デンマークの紹介、派遣生による成果報告、日本文化の紹介

発表内容：姉妹都市であるデンマークのグラズサクセ市で様々な交流を行う中、自他のよさと個性を知り、お互いを理解し尊重する態度を学んだ。また、派遣生徒として、英語やデンマーク語を使って、積極的に台東区の文化・歴史を伝えてくることで台東区への誇りを深めることができた。

（３） 課題

海外における生活や学習及び相互交流などの直接体験を通して、豊かな人間性を培うことができるが、派遣先の校長が変わると訪問先の学校が変わることがある。

生徒が安心して上記の目的を達成するための環境を設定するため、最低でも 3 年間は同じ学校に継続して訪問できるようにする必要がある。

（４） 今後の取り組み

平成 27 年度にはグラズサクセ市との交流 15 周年目の節目を迎える。そのため、交流団が台東区を訪問されるので、中学生海外短期留学派遣生とグラズサクセ市の交流団とが例年以上に深い交流ができるよう進めていく。

平成26年度 教育施策評価シート

施 策 名	生涯学習の基礎を養う
--------------	------------

1．現状と課題 (平成25年度末)

【現状】
 区民の一人ひとりが、自らの生き方を選択し、社会の一員としての役割を果たしながら地域社会を創造していくためには、時代や社会の変化に応じて必要となる学習を主体的に学ぶ態度を身につけていくこと、すなわち、生涯学習の基礎を養う必要があり、下記の取り組みを進めている。
 (1) 家庭教育の充実
 親の役割や家庭教育の重要性についての理解を深め、家庭の教育力を高める家庭教育学級等の事業や家庭教育の充実を図るための情報提供事業、また、地域全体で子育てをする意識を醸成し、区内の子育て環境を充実する家庭教育支援者養成講座を実施している。
 (2) 社会教育の充実
 区内5カ所の社会教育センター等の地域館では、区内で活動する社会教育団体に学習の場を提供するとともに、学習のきっかけをつくる各種講座や、子どもと共に親の育成を図る親と子の教室、高齢者の健康づくりや社会貢献活動等を進めるための事業等を行っている。また、学習の成果を発表し、地域や団体間の交流を深める「サークルフェスタ」を実行委員会方式で実施している。
 生涯学習センターでは、学習の場の提供を図るとともに学習情報の収集と提供を行うほか、生涯学習を振興するため、登録される学習支援ボランティアの普及・活用を図る講座等の事業を実施している。
 (3) 家庭・学校・地域の連携
 家庭・学校・地域がそれぞれの特性を大切にしながら、連携・協力のもとに、子どもの豊かな心を育む「下町台東の美しい心づくり」や地域の中に子どもたちの緊急避難場所をつくる「こども110番の普及」等の事業を実施している。

【課題】
【家庭教育の充実】
 乳幼児家庭教育学級では、母子孤立の解消や父親の家庭教育力の向上などの課題に対応し、様々な環境にある乳幼児家庭の教育力が高まるよう、学習の場を提供していく必要がある。
 また、支援者養成講座では、3年間の講座実施により修了生による支援を目的とした自主グループが生まれたので、団体の活動が一層、振興するようフォローアップを進めていく必要がある。また、これまでの3年間の成果を踏まえ、今後の講座の内容を検討していく必要がある。
【社会教育の充実】
 生涯学習センターは、多くの区民の利用があるが、開設から13年が経ち、様々な箇所の劣化等が見受けられ、快適な施設利用のために、計画的な修繕をしていく必要がある。
【家庭・学校・地域の連携】
 下町台東の美しい心づくりでは、事業開始から10年が経過し事業が定着してきている。さらに啓発効果を高めるために従来の手法等の見直しを行なう必要がある。こども110番の普及は、主な協力者が住居・事業所を同一とする個人事業主であるため、高齢等による理由で登録辞退があるため協力者数が減少傾向にある。

2．基本的な考え方と施策の方向

(家庭教育の充実)
 子育て支援体制の充実や家庭の教育力の向上、また、地域全体で子育てする意識の醸成を図る。
 (社会教育の充実)
 社会の場の多様な教育や社会をつくる一員としての学習を推進し、交流の場と機会の充実を図る。
 (家庭・学校・地域の連携)
 家庭・学校・地域の連携・協力による教育機能の充実を図る。

3．施策の執行状況

施 策	事 業 名	指 標・計 画 目 標	事 業 実 績		
			23年度	24年度	25年度
子育て支援体制の充実	家庭教育情報の提供(家庭教育の振興)	ホームページ作成	「大輪」に家庭教育に関する特集号を掲載	乳幼児家庭教育学級の様子をCATVで放映	「子育てメールマガジン」を活用
家庭における教育力の向上	家庭教育学級・乳幼児家庭教育学級(家庭教育の振興)	学校・園 42会場 4,400人 団体 4会場 270組	42会場/参加者数4,024人	42会場/参加者数3,896人	43会場/参加者数3,780人
地域全体で子育てする意識の醸成	家庭教育支援者養成(家庭教育の振興)	実施	講座1回(6回連続)受講者14人	講座1回(講演会含む3部制8回)受講者22人	講座1回(講演会含む6回連続)受講者40人
社会の場の多様な教育の推進	社会教育センター・教育館	利用者数 122,000人	119,802人	121,958人	120,976人
社会をつくる一員としての学習の推進	生涯学習センター	利用者数 336,000人	321,258人	358,391人	325,622人
	社会教育センター・教育館	利用者数 122,000人	119,802人	121,958人	120,976人
交流の場と機会の充実	文化祭	来場者数 5,700人	7,005人	7,093人	7,302人
家庭・学校・地域の連携・協力による教育機能の充実	下町台東の美しい心づくり	11地区	11地区	11地区	11地区
	青少年フェスティバル～下町つこ祭り～(青年フェスティバル)	来場者28,000人 中高生ボランティア数440人	24,200人 450人	22,000人 477人	22,100人 473人
	こども110番の普及(子どもの安心対策)	協力者2,000人	1,925件	1,741件	1,748件

4. 事務事業評価の結果 (予算措置のある事業のみ)

事業名称	必要性	効率性	手段の適切性	目的達成度	今後の方向性	25年度決算額(千円)	25年度事務事業コスト(千円)	25年度事務事業コスト割合(%)
家庭教育情報の提供(家庭教育の振興)	4	3	3	3	維持	2,949	13,555	3.3%
家庭教育学級・乳幼児家庭教育学級(家庭教育の振興)								
家庭教育支援者養成(家庭教育の振興)								
社会教育センター・教育館	3	3	3	3	維持	143,107	151,203	36.8%
生涯学習センター	3	3	3	4	維持	206,557	229,106	55.7%
文化祭	3	3	3	3	維持	132	2,689	0.7%
下町台東の美しい心づくり	3	3	3	4	維持	1,641	5,050	1.2%
青少年フェスティバル～下町っこ祭り～(青年フェスティバル)	3	3	4	3	維持	3,700	6,683	1.6%
こども110番の普及(子どもの安心対策)	3	3	3	3	維持	524	3,081	0.7%
						358,610	411,367	100%

5. 執行状況の評価

評価の視点	評価	課題等
事務事業の実績は順調に推移しているか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「家庭教育学級・乳幼児家庭教育学級」では、家庭教育の充実を図るためのニーズは高まっている。学級終了後のアンケートでは、「役に立った」と回答している割合が概ね90%を超えている。また、「家庭教育支援者養成」では、3年間の講座実施の結果、子育て支援を行う団体が生まれ、活動を行っている。生涯学習センター等の施設では、利用件数・利用率が増加している。「青少年フェスティバル～下町っこ祭り～」では、中高生ボランティアの参加者数は、増加傾向にある。
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。	B A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	家庭教育学級に関する情報提供の方法に改善の余地があると考えている。「生涯学習センター」では、経年劣化による故障・不具合が出てきており、それに係るコストが上昇傾向にある。「下町台東の美しい心づくり」では地域住民の主体性を尊重し事業を実施しているところであるが、今後とも啓発品の内容等を工夫していく。「子どもの安心対策」では類似事業や施策を実施している所管課が統一して事業展開ができれば、より効率的に取り組むことが可能であると考えられる。
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。	A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「社会教育センター・社会教育館」では、担当業務を遂行するために必要な資格や条件を有する職員を配置し、事業運営している。「下町台東の美しい心づくり」では、関係機関と相互に連携・協力しながら家庭・地域・学校における心の教育の推進に努めている。

6. 総合評価 (上記5の～に基づいた総合評価)

A A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	「生涯学習の基礎を養う」施策を構成する、「家庭教育の充実」事業、「社会教育の充実」事業、「家庭・学校・地域の連携」事業は、例えば、生涯学習施設の経年劣化による計画的な修繕等の課題はあるものの、各事業とも、執行状況は、概ね順調に推移している。
--------------------------------------	--

7. 今後の方向性

「生涯学習の基礎を養う」施策の基本的な考え方と施策の方向性を踏まえ、各事業とも、一層の充実を図るため、引き続き、取り組んでいく。

重点的な取り組みとして位置づいている「家庭教育の充実」では、子育て家庭のニーズを踏まえ、より多くの保護者が参加できかつ満足度の高い家庭教育学級・乳幼児家庭教育学級、また、支援者養成の事業等を実施していく。

「社会教育の充実」では、学習支援ボランティア講座等の一層の充実を図るなど、生涯学習センターの利用の促進を図り、生涯学習を振興していく。社会教育センター等の地域館では、活動サークル等と連携を図った事業運営や情報提供を行い、身近な学習の場として、区民の生涯学習を支えていく。

「家庭・学校・地域の連携」においては、青少年フェスティバル～下町っこ祭り～では、中高生ボランティアが各地区や他団体と一緒に運営することで地域と交流する機会となっており、また、各地区委員会の青少年育成活動の活性化にもつながっているため、中高生ボランティア希望者がさらに増加した場合でも十分な受入体制を整えられるよう青少年育成地区委員会連合会及び区内中学校高校との連携をより強化していく。また、下町台東の美しい心づくりでは、子どもの「美しい心」を育むために、各地区の実情や意向に沿った取り組みがなされるよう、引き続き地域住民等に働きかけていく。

< 生涯学習の基礎を養うの主な事業の取り組み >

「下町台東の美しい心づくり」

(1) 生涯学習推進プランの記載内容

台東区の子どもの豊かな心を育むため、家庭・地域・学校・関連機関等が連携し、区民の心の教育の関心を高め、全地区共通事項としての「あいさつ運動」や、講演会の開催等に取り組む。

現況	24年度 事業量	25年度 事業量	26年度 事業量	28年度までの 方向性
11地区で 活動	11地区	11地区	11地区	充実

(2) 取り組み状況

「下町台東の美しい心づくり推進方針（平成16年10月27日策定）」に基づき、台東区の子どもの豊かな心を育むために、家庭、地域、学校、関係機関と連携し、区民の心の教育への関心を高めることを目的に実施する。

【全地区共通の取り組み】

「あいさつ運動」については、区内の全小・中学校や幼稚園、保育園、児童館などで実施され、のぼり旗の掲示なども行われている。登校時を中心に、小・中学校で、児童・生徒や教諭等により、あいさつ活動が多く行われている。

また、ハートをイメージしたデザインのシンボルマークや「我が家のルールコンクール」優秀作品等を入れた独自の啓発品を作成し、活用している。

講演会については、心の教育推進区民大会が隔年実施であるため、平成25年度は行っていない。



シンボルマーク

【地区での取り組み(主なもの)】

地区名	事業名	事業内容等
東上野	読み聞かせ会	年 16 回、東上野保育園園児延べ 319 名参加
金杉	金杉っ子まつりでの啓発品配布等	年 1 回、約 900 名参加
寿	夕涼み会での啓発品配布等	年 1 回、延べ 1,431 名参加
清川	声かけ隊活動	年 42 回、隊員数 178 名(平成 26 年 3 月 31 日現在)
	地区学習会	年 1 回、演題「現代の若者について」、63 名参加

事業実績は平成 25 年度のもの。

(3) 課題

事業開始から 10 年が経過し、「あいさつ運動」等については定着してきている一方で、地域によって取り組みの差が見られる。意識改革を目的としているため一朝一夕に進むものでもないが、子どもの豊かな心を育むために、各地区の実情や意向に沿った取り組みがなされるよう、引き続き働きかけていく必要がある。

(4) 今後の取り組み

今日の子どもたちを取り巻く環境は、情報化や少子化が進んだことによる人間関係の希薄化や、子どもが被害者になる事件や児童虐待が発生しており、大きく変化している。

しかし、台東区においては、下町の温かな心や地域のふれあいなど江戸の頃より引き継がれた伝統や文化の精神が脈々と根付いている。

今後とも地域のすべての大人たちが子どもたちを育てる意識や協力のもと、家庭・地域・学校・関係機関等が子どもの成長に責任をもつとともに、相互に連携・協力し、一体となって継続的に取り組んでいく。

平成26年度 教育施策評価シート

施 策 名	あらゆる世代の多様な学習を振興する				
1. 現状と課題 (平成25年度末)					
【現状】					
生涯の各期において習得すべき知識や技術、社会的な役割があり、社会の変化に対応した学習を進める必要があることから、下記の事業を実施している。					
(1) 乳幼児の学習の場の充実 心情、意欲、態度の基礎的形成期である乳幼児期の子どもが、安心した環境のなかでさまざまなものに触れる機会を充実させるため、あかちゃんえほんタイム等の事業を実施している。					
(2) 青少年の活動への支援 青少年期は、様々な体験活動を通して物事への関心を広め、他人への共感やコミュニケーション能力を育み、社会への所属感や、社会性を身につける時期であり、少年リーダー研修会や生活指導子ども会、放課後子ども広場等の事業を実施している。					
(3) 成人の学習支援 趣味や教養、生活技術を養う各種講座の実施を始め、区の歴史や文化について関心を高める郷土資料の記録と整備等の事業を実施している。また、視覚障害者図書サービスや特別支援の必要な青年対象の学級を実施し、学習活動を支援している。					
(4) 高齢期の社会活動支援 高齢者が健康の維持増進等、高齢期の課題について学ぶことのできる機会を提供するとともに、豊かな経験と知識をもつ高齢者がその力を次世代に引き継ぎ、社会参加の活動を促進するため、シニアライフ応援計画等の事業を実施している。					
(5) 多様化する区民の新しいニーズへの対応 多様化する区民のニーズに対応していくため、参加型の事業の実施や学習情報の充実等を図るとともに、新規事業の(仮称)区民カレッジの創設にむけ、平成24・25年度は、社会教育委員の会議で審議をされ、答申を得た。					
【課題】					
【乳幼児の学習の場の充実】 対象者のニーズを把握し、より参加しやすい事業内容や実施方法を検討していく必要がある。					
【青少年の活動支援】 少年リーダー研修会は、区内青少年委員経験者やPTA等を中心に構成された台東区青少年指導者育成者会に運営の一部を委託している。研修会の参加人数の増加に対して育成者会会員は新規入会者が少ない。研修内容により野外炊事やハイキング等安全確保のために人員が必要な事業もあり指導者の確保が課題である。放課後子ども広場でも、児童数の増加に伴い参加者数も増加しており、活動中に児童を見守る人材不足が課題である。					
【成人の学習支援】 パソコン(初心者)講座について、参加率が減少傾向にあり、内容や実施方法等見直しが必要となっている。郷土資料の記録と整備では、資料の充実を図ること、また魅力ある企画展や関連講座を実施していくことで郷土・資料調査室の入室者数の増加につなげる。また、今後も貴重資料のデータ化を進め資料をより広く活用できる環境を整備していく。					
【高齢期の社会活動支援】 シニアライフ応援計画では、実行委員会の人数や構成に変動があり、計画的な事業実施が困難な状況であるため、人材の充実を図る必要がある。					
【区民の新しいニーズへの対応】 (仮称)区民カレッジの創設では、社会教育委員の会議の答申を踏まえ、行政計画のもと、計画的に検討を進めていく必要がある。					
2. 基本的な考え方と施策の方向					
(乳幼児の学習の充実) 親子共同体験、乳幼児期の生活体験機会の充実と乳幼児が利用できる場の提供を図る。					
(青少年の活動への支援) 青少年の社会参画、放課後の活動支援、世代間交流、青少年団体等への支援などの充実を図る。					
(成人学習の支援) リカレント教育の推進とさまざまな学習環境の充実を図る。					
(高齢期の社会活動促進) シニア世代の地域参加支援や多世代交流の促進を図る。					
(多様化する区民の新しいニーズに対応する) 区民に新しい学習機会を創出し多様な媒体を用いた学習機会の整備を図る。					
3. 施策の執行状況					
施 策	事 業 名	指 標・計 画 目 標	事 業 実 績		
			23 年 度	24 年 度	25 年 度
乳幼児期の生活体験機会の充実	あかちゃんえほんタイム (子どもの読書活動の啓発の推進)	おはなし会等の回数	174回	236回	242回
乳幼児が利用できる場の提供	幼児タイム	活動回数 参加者数	752回 19,097人	771回 21,960人	732回 22,342人
青少年の社会参画による社会性の育成支援の充実	新成人を祝う会	参加者数(参加率) 実行委員会開催数(実行委員数)	769人(55.8%) 10回(22人)	712人(55.5%) 12回(18人)	758人(56.2%) 10回(17人)
	研修会の開催(青少年教育の推進)	少年リーダー研修会実施回数 少年リーダー研修会参加者数	66回 1,678人	63回 1,768人	61回 1,820人
	善行少年の表彰	被表彰者件数	10件 (6個人2協力2団体)	5件 (3個人2協力)	11件 (6個人3協力2団体)
放課後の子どもたちの活動の支援の充実	生活指導子ども会	19校 各校年96回実施	19校 延べ1,727回、 延べ65,915人	19校 延べ1,415回、 延べ50,718人	19校 延べ1,378回、 延べ47,990人
	放課後子ども広場	実施校 延べ参加人数	1校 13,387人	1校 12,032人	1校 11,812人
	児童館 こどもクラブ	実施 実施	7館 21か所	7館 21か所	7館 22か所 (1館建築中)
世代間交流の促進	研修会の開催	少年リーダー研修会実施回数 少年リーダー研修会参加者数	66回 1,678人	63回 1,768人	61回 1,820人
青少年育成団体等への支援の充実	ジュニア駅伝大会	参加者数	505人	575人	640人
学習環境の充実	青少年フェスティバルー下町っ子祭りー(青年フェスティバル)	来場者28000人 中高生ボランティア数440人	24,200人 450人	22,000人 477人	22,100人 473人
	少年自然の家「霧ヶ峰学園」	利用延人数	12,933人	14,083人	14,477人
	自然の村「あわ野山荘」	利用延人数	2,360人	1,793人	2,224人
	生涯学習センターミレニアムホール・会議室等	稼働率	62.80%	65.90%	67.10%
大人の「学び直し」や基礎的学習の機会の提供	生涯学習ラーニングスクエア	講座数(社会教育館分除く) 3講座参加者数300人	3講座 278人	3講座 247人	3講座 198人
	郷土資料の記録と整備	利用件数	40,028件	64,660件	58,764件
障害のある成人に対する学習環境の支援	視覚障害者図書サービス	収蔵数	1,078タイトル	1,218タイトル	1,270タイトル
	下谷青年学級	学級開催回数 12回 学級生参加人数(延)420人	12回 414人	12回 390人	12回 414人
シニア世代の地域参加支援	ボランティア体験講座	実施		実施	実施
シニア世代のライフプラン促進	シニアライフ応援計画	実行委員会実施数12回 講座・講演会実施数3回	10回 3回	3回 3回	11回 3回
多世代交流の促進	いきいき台東っ子応援団	活動回数 参加者数	100回 7,507人	105回 7,199人	92回 6,389人
区民による新しい学習機会の創出	シニアライフ応援計画	実行委員会実施数12回 講座・講演会実施数3回	10回 3回	3回 3回	11回 3回
学習機会の整備	(仮称)区民カレッジの創設			検討	内容検討
多様な媒体を用いた学習機会の充実	ガイドブック及びセンターニュースの発行	ガイドブック作製部数 センターニュース発行部数	3,000部 24,000部	6,000部 24,000部	3,000部 24,000部

4. 事務事業評価の結果 (予算措置のある事業のみ)								
事業名称	必要性	効率性	手段の適切性	目的達成度	今後の方向性	25年度決算額(千円)	25年度事務事業コスト(千円)	25年度事務事業コスト割合(%)
あかちゃんえほんタイム(子どもの読書活動推進)	3	3	3	4	維持	3,410	32,776	2.5%
新成人を祝う会	3	3	3	3	維持	2,147	6,835	0.5%
研修会の開催(青少年教育の推進)	3	3	3	3	維持	3,984	11,562	0.9%
善行少年の表彰	3	3	3	4	維持	117	2,248	0.2%
放課後子ども広場(生活指導子ども会含む)	3	3	3	4	維持	12,813	17,926	1.4%
児童館(管理運営・幼児タイム含む)	4	3	3	4	拡大	253,344	258,458	19.6%
こどもクラブ(管理運営)	4	3	3	3	拡大	452,843	469,887	35.6%
ジュニア駅伝大会	4	4	3	4	維持	2,328	6,163	0.5%
青少年フェスティバル～下町っこ祭り～(青年フェスティバル)	3	3	4	3	維持	3,700	6,683	0.5%
少年自然の家「霧ヶ峰学園」	3	3	3	4	維持	72,754	77,016	5.8%
自然の村「あわ野山荘」	3	3	2	3	改善	23,823	31,067	2.4%
生涯学習センター・ミレニアムホール・会議室等(生涯学習センター管理運営)	3	3	3	4	維持	206,557	229,105	17.4%
資料収集	3	3	3	3	維持	52,776	130,449	9.9%
生涯学習ラーニングスクエア	3	3	2	2	改善	1,488	3,619	0.3%
郷土資料の記録と整備	4	3	3	4	拡大	4,047	21,943	1.7%
視覚障害者図書サービス	3	3	3	4	維持	975	3,958	0.3%
下谷青年学級	3	3	3	3	維持	1,308	5,903	0.4%
シニアライフ応援計画(ボランティア体験講座含む)	3	3	3	4	維持	117	2,248	0.2%
いきいき台東っ子応援団	4	3	4	3	維持	614	1,466	0.1%
						1,099,145	1,319,312	100%
5. 執行状況の評価								
評価の視点	評価		課題等					
事務事業の実績は順調に推移しているか。	B	A 順調である B 一部課題がある C 課題がある	今後、事業を継続的に発展させていくためには、例えば、「青少年の活動への支援」では、活動を支援する人材を確保の必要があることや、「乳幼児の学習の場の充実」と「郷土資料の記録と整備」では、対象者のニーズを踏まえた事業運営の必要があることなどの課題はあるが、事務事業の実績は、概ね順調に推移している。					
事務事業の効率性やコストに改善の余地はないか。		A	施設面では、施設の経年劣化により会議室等の付帯設備に不具合が生じる状況があり、修繕のためのコストの上昇等の課題はあるが、多くの事業は、毎年度の事業の見直しにより効率的に運営されている。					
事務事業の執行体制上(組織・人員)の課題は無いか。		B	事務事業の運営にあたり、専門性を要する職務や活動が多く、人材の確保や事業の計画的な運営が必要であり、課題となっている。					
6. 総合評価 (上記5の～に基づいた総合評価)								
B	「あらゆる世代の多様な学習の振興」については、今後、継続的に発展させていくためには、課題に取り組んでいく必要があるが、全体的には順調に推進してきている。							
A 順調である B 一部課題がある C 課題がある								
7. 今後の方向性								
<p>「あかちゃんえほんタイム」などの子どもの読書活動推進では、学校を通じての周知や、各種広報媒体を利用したPRなど、参加者を増やす取り組みを積極的に行っていく。また、実施日や申込方法を見直すなど、関心を持つ区民が参加しやすい環境を整える。また、イベント開催後にアンケートを設置し、参加者のニーズを把握し、より魅力のある行事にできるように次につなげていく取り組みや行事に合わせた特集コーナー作り等で本の紹介を積極的に行う。あわせて、図書館自体に親しみを持ってもらうイベントを実施するなどの工夫をする。</p> <p>「青少年の活動への支援」では、活動を支援する人材を確保するため、地域青少年関係団体や事業等への周知を図り、新たな指導者の確保を図っていく。</p> <p>「郷土資料の記録と整理」では、計画的に資料整理を進めていく。26年度からは、デジタルデータ化に必要な資料のうち定点写真の整理を進める。並行して地図資料などのデータ化も行う予定としている。資料整理は、写真など職員が主にやるものと、浮世絵・和古書など専門員の知識の必要なものと、人員を割り振りながら順次行う。</p> <p>(仮称)区民カレッジの創設にあたっては、行政計画に位置づけ、庁内の連携を図り、計画的に創設に向け進めていく。</p>								

< あらゆる世代の多様な学習を振興するの主な事業の取り組み >

「郷土資料の記録と整備」

(1) 生涯学習推進プランの記載内容

中央図書館の郷土・資料調査室では、台東区民および区外の台東区を知ろうとする人々の、台東区への関心を高めることを目的とし、参考図書の収集や郷土資料の収集・保存、ゆかりの文学資料の収集・保存を行っている。

利用者の調査研究のための資料提供や相談業務（レファレンス）に対応するために収集している参考図書は、約9,000冊である。

また、台東区の歴史や地誌、文化財に関する資料約20,000冊、台東区にゆかりのある文学者に関する資料や台東区が舞台となった文学作品約2,000冊を収集し、それらを活用した展示や講座などを実施している。

郷土資料やゆかりの文学資料の中には、浮世絵や古地図、和古書、古写真などの貴重資料もあり、それらの適切な保存も重要な役割の1つである。

(2) 取り組み状況

・郷土資料の収集・整理・保存

一般利用者のみならず、研究者、マスコミなどの幅広い相談業務（レファレンス）や資料の特別貸出の要望に応えられるよう、資料の収集・整理・保存に努めている。

平成25年度の郷土・資料調査室利用件数実績は、58,764件である。

・企画展・関連講座の実施

郷土・資料調査室内の展示スペースでは、保有する郷土資料・ゆかりの文学資料を活用し、台東区の歴史や文化をテーマにした企画展を年4回行い、関連講座等も実施している。

平成25年度企画展実績

企画展名	開催期間	関連講座等
復興	平成25年3月23日（金） ～6月16日（日）	講演会
歌舞伎のまち、浅草猿若町 ～江戸っ子があこがれた、 粋でおしゃれな芝居町～	6月21日（金）～ 9月18日（水）	講演会
「坂本村文書」と入谷の植木市 ～明治期農村の都市化～	9月20日（金）～ 12月18日（水）	史跡散歩、スライド トーク（展示解説）
かつて浅草にあったコレクショ ンたち。浅草文庫と台東図書館	12月20日（金）～ 平成26年3月19日（水）	講演会、リレートー ク、スライドトーク

-浅草を見つめつづけた写真家- 高相嘉男写真展 ストリート・ストーリー	3月21日(金)～ 6月15日(日)	
---	-----------------------	--

・貴重資料のデジタルデータ化や複製の作成

貴重資料を区民の利用に供すると同時に、資料の保全を図ることを目的とし、貴重資料のデジタルデータ化と複製の作成に取り組んでいる。これまでに、浮世絵や古地図、和古書など約800点のデータ化を行っている。また、写真家、故高相嘉男氏より寄贈を受けた写真(約1200点)についても、データ化を行っている。平成25年度には、浮世絵24点のデータ化を行った。

学術研究や地域のPR素材として資料の特別貸出の要望があった際、これらのデータを活用している。平成25年度の特別貸出等実績は、42件220点である。

・浅草文庫コーナーの運営

浅草観光連盟より寄贈を受けた6,000点を超える資料により、平成24年度、郷土・資料調査室内に「浅草文庫コーナー」を開設した。演劇・歌舞伎・落語関係の資料が多く、郷土資料の一層の充実を図ることにつながっている。平成25年度企画展「かつて浅草にあったコレクションたち。浅草文庫と台東図書館」では、この浅草文庫の歴史を取り上げた。

(3) 課題

多彩で豊富な文化資源が集積する台東区の郷土資料の保存に努め、その充実を図ることが求められている。さらには、資料について、広く知ってもらうために展示や講座などにおいて活用していくほか、データベースを公開するなどして、資料の利用機会の充実を図っていくことが求められている。

なお、貴重資料のデジタルデータ化は、資料の保存、管理、提供の手段として有効であることから、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

一方、こうした資料の整理・保存には、専門的知識と、所蔵資料に精通した実務経験が求められる。

(4) 今後の取り組み

所蔵資料に精通した実務経験を有する職員の育成を図り、資料を広く活用できる環境を整備していく。

通常公開していない貴重資料をデータベース化し、これまでデジタル化したデータを公開できる環境を整える。これにより、貴重資料の存在を広く発信することができ、利用者が活用できる資料の範囲が拡大する。

7 学識経験者による意見

浦井 正明（寛永寺長藤）

【体験的な活動を通じた健やかな体づくりの推進】

- ・ 全体的によく整理され、系統づけられていると思う。
- ・ 自然体験については動植物や絵画、彫刻など、自然環境の中で接することのある事柄に対して、感性を養うということに留意してほしい。
- ・ 絵画、彫刻といったのは、日光林間学園などでそうした系列のものを見て、何を感じるのかということである。実物を見て、自分がどう思うのかを考えさせるのが大切である。
- ・ 松尾芭蕉の俳句「山路来て 何やらゆかし すみれ草」を緒に、芭蕉はそこで、すみれに何を見、何を感じたのかをテーマに路傍の野草を見てほしい。
- ・ 例えば、上野公園に来て、古木を探してみると、
博物館のゆりの木
五条天神前のタブの木（照葉樹）
かつてこの地が海岸線であったとわかる。

【将来への夢と希望を育むこころざしの育成】

- ・ 国際理解重点教育については、
研修もよく行われているようで素晴らしい。カリキュラムにも入っているように、外国（例えばデンマーク）についての知識以上に我が国についての歴史・文化の学びが大切である。
外国の人は日本の歴史や文化に興味があるので、自国のことを派遣生から聞く心算は無いからである。
そのためには、地元台東区のことを身に付けることも良いと思う。（歴史・テキストの活用）
日本人としてのアイデンティティをしっかりと身に付けておかないと、外国の人々から軽くみられる心配がある。

【生涯学習の基礎を養う】

- ・ 地域社会全体で子育てに携わることは、江戸時代以来の日本の特性であった。
- ・ 幕末、維新時に日本を訪れた外国人（例えばモースやイザベラ・バードなど）のほとんどが、日本人の子育てをほめている。「日本ほど子供を社会全体でみる国はない。」「日本の子供は天国だ。」などと言っている。
- ・ この風習は戦後失われつつある。現在でも比較的良好この風習の残っている台東区で是非これを学校 家庭 地域社会というもの全体で生かしていきたい。さらに可能なら、3世代の同居が望ましい。少子化の中、子供は親に監

視されて叱られても逃げ場がないのである。祖父母の存在は大切なのである。

【あらゆる世代の多様な学習を振興する】

- ・よく考えられているし、実施もされており、大筋において問題はないと思う。
- ・大人（中高年）の「学び直し」の方策は極めて大切なことである。
- ・その点で「区民カレッジ」の創設への取り組みを高く評価したい。
- ・その際、大切なのは講師の持つ知識の切り売りではなく、参加者が自分で考えるような内容にすることである。それによって中高年は新たな問題に興味を持つことができる。この新しい方向の選択の有無がこのカレッジの生命線である。
- ・この新しい分野への興味を沸かせないと、その場限りの講義に終わってしまう。中高年には新しい生き甲斐を見つけてもらうことが大切である。

有村 久春（東京聖栄大学教授）

【体験的な活動を通じた健やかな体づくりの推進】

- ・本施策は、すべての教育活動（人間教育）の基盤をなすものである。今後も重要視していきたい。この理解をベースに、「体力」「健康」「自然」「食育」「安全」「防災」をキーワードにした具体的な施策が数年来継続的に実施されていることを積極的に評価したい。継続は力なりである。事業実績の数値にもあらわれているが、各内容の規模や回数等に大きな変動はみられない。まずは、このことを良しとしたい。
- ・このことは、台東区が学校教育法 21 条（義務教育目標）の 1 と 2 項に照らして子どもたちの精神的支柱を育てようとしている証左であろう。すなわち、この施策の実施を通して法に示された「学校内外の社会的活動の促進」「自主自律、協同の精神」「規範意識や公正な判断力」「公共の精神」「自然体験活動の促進」「生命や自然を尊重する精神」「環境保全への寄与」などの教育的価値を具現化している。
- ・現状に甘んじることなく、さらなる発展を期待して特に自然体験の拡充を願う。例えば、「幼児の自然体験」や「ビオトープ調査隊」の事業にあって、幼児や小学校低学年等による上野公園および精華公園等の活用が内容的・回数的にもう一步積極的であってほしい。ここでの幼少期の自然および社会体験が小中学校での移動教室の体験活動に活かされると考える。幼保園と小中学校との接続を重視し、台東区の子どもたちの＜体験活動の連続性＞を実証的に追究していただくことを願う。
- ・その状況においては、小中学校の移動教室の実施日程の増加を考えてもよいのではないか。小学校で3泊～5泊など、中学校で4泊～6泊など。これに応じる施設環境の問題もあるが、長期の宿泊体験は子どもの社会性や自律的な態度形成、対人関係の形成などに極めて有益である。将来の社会や自己の生活に起きうるであろう＜不測に事態＞への対応能力にも資するものと考ええる。その具体化に向けて検討していただければ幸いである。
- ・今日的な課題として、セーフティ教室を充実したい。これまでの実績をふまえさらに＜子どもたちの犯罪被害対策＞に十分な対策を講じたい。台東区の子どもを大人の犯罪（連れ去り等）から完全に守らなければならない。警察や各部署との協働のもと、未然防止を第一優先する必要がある。例えば、区民を挙げた運動を展開する、各学校園で予防訓練を行う、啓発パンフを家庭・地域に発信するなど。

【将来への夢と希望を育むこころざしの育成】

- ・本区が独自構想として重視する＜こころざしの育成＞は、次代を担う人材育成に不可欠である。国の教育施策や次代の社会的な方向性とも合致してい

る。周知のように、昨年 11/20 に文科大臣が中教審に諮問した教育課程基準の在り方は、「子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎える」として、「子供たちが就く職業が現在とは様変わりすること」や「人と社会の豊かさを追求していくには一人一人の多様性を原動力とし、新たな価値を生み出していくこと」の必要性を強調している。これらの点を踏まえつつ、区を挙げた教育活動においてこころざしを育む教育に積極的に取り組みたい。

- ・この諮問が求めていることは、「将来を担う子供たちが伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間」として、「他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付ける」ことである。台東区はこの未来像を具体化する地域の事情や文化資産の宝庫であるといえよう。この実態の活用について、これまで実施している事業内容（例：こころざし教育副読本活用、海外派遣、英語発表会、武道の授業など）に留めるだけよいのであろうか。
- ・例えば、「新たな価値を創造し主導できる人材の育成」(5-(3))の事業を台東区の地域特性を踏まえ、そのテーマの通り「創造」「主導」させたい。率直なところ具体策がみえてこない。この取組こそが本施策のポイントであろう。上野公園を舞台にした世界的な文化や芸術、また台東区独自の下町文化（粋の精神）などを区内の子どもたちが日常的に出会い・それに学ぶことである。この営みは、子ども個々の〈こころざし〉を直接に刺激し、その内的エネルギーを引き出すことに外ならない。台東区にしかできない教育活動であり、未来への〈人間力の投資〉であると考えている。
- ・また、来る東京オリンピックを視野に入れ、国際理解教育のさらなる充実・発展を期待したい。小学校の英語活動および中学校の英語指導助手派遣については、従前どおりの内容的な充実とともに時代の要請に即した教員研修（例：国際感覚のある教師、英語が話せる教師の養成）にも努めたい。また、台東区では外国人観光客が多いことからその観光案内を児童生徒が体験できるシステムを考えたい。例えば、土曜・日曜日や長期休業日などに〈子ども観光ガイド〉の活動を活性化したい。地域の商店街や観光協会などとの協働態勢のもとに、台東区の子どもたちの力量を世界の人々に発信したい。

【生涯学習の基礎を養う】

- ・本施策では、家庭教育、社会教育、家庭・学校地域の連携の3つの課題を追究している。その推進プランによると、およそ8つの担当課において計21の事業を展開している。それぞれの事業が区民のニーズをふまえ、区民が主体的に学ぶ場と機会を有効に位置づけていると考える。26年度までの事業量を数値的にみるとほぼ例年通りの傾向にあるが、その内容において「講座

修了生による自主グループが生まれる」「生涯学習センターの利用率が増加している」「フェスティバルでボランティアの増加している」などの成果が見える。着実な区民サービスの進行を評価したい。

- ・上記の読み取りとともに、大半の事業において事業の固定化（マンネリ化）もみられるのではないかと。実施回数や参加人員等に変動が見られない事業内容が少なくないと思う。乳幼児数や家庭数などその対象が限定的になることもあるので、一概には言い切れない面があろう。それゆえ、内容的・質的な向上や成果をどのような視点から把握するのか、十分な検討を重ねたい。例えば、対象者へのアンケート内容の工夫、担当課職員による区民との対話（訪問面接など）の実績など、区民の生涯学習の状況を肌で感じ取る体験が欠かせない。とくに乳幼児の支援や発達相談、こども療育の分野など。
- ・本施策は、人間成長のベーシックなところを担うだけに、各事業の構成や内容において「前年通り」の発想から「新たなニーズは何か？」の視点に立つ必要がある。そして、各担当課の相互連携をもとに協働して（ときには組織変革して）、総合的・包括的に事業内容を刷新することも重要である。その緻密かつ柔軟な事業運営が、児童虐待の未然防止や保護者の悩み相談の増加および継続性、区民とりわけ子育て中の保護者等の学びのきっかけづくり、などに連関するものである。
- ・また、区内の保育園・幼稚園や小中学校との協力・協同による事業も考えたい。21の各事業においては、学校教育とのかかわりや一体感がみえにくいように思う。とくに19～21の事業に各学校園がどのように具体的に関わっているのか、そこでの学びの実態と成長は何かなどの読み取りが必要である。19の＜美しい心づくり＞は、まさに台東区を象徴する位置にあると思う。台東区民が有している区独自の＜おもてなし＞そのものである。この事業にある「シンボルマーク」は、ワッペン化されているのであろうか。区民が身近なところで活用できる扱いが欲しいところである。そして、子どもたちや区民の学びと成長は、生涯学習と学校教育をアウフヘーベンするところに存在することを大切にしたい。区民一人一人の生涯学習の基礎はその双方に立脚していることを再認識することが重要である。
- ・本施策のうち、事業コストが比較的高い（55.7%）生涯学習センターの経年劣化の状況が気付きである。台東区民の学びのメッカとしてのセンターの施設設備の充実を待たない対応が必要ではないか。早急な対応を期待したい。

【あらゆる世代の多様な学習を振興する】

- ・本施策においては、乳幼児からシニア世代までをカバーする幅広い事業展開がみられる。22～58の各事業である。区民一人一人の一生涯を通じた学習支

援を行う事業だけに、上記施策の「生涯学習の基礎」を養う具体的な場や機会になるものである。それらの一つ一つに、担当課と区民が一体となり「区民の生活をつくる営み」がみえることになろう。その意味では、行政的な振興というよりも区民の「自己振興」を重視する発想に立ちたい。区民の自主的・自発的な発想とともに、区民自身はその企画・運営および評価をしていくよう、「行政振興」の在り方を工夫したいところである。区民の「意識振興」の高揚が各事業のベースに求められることを期待したい。

- ・今日の社会はダイバーシティの思考が不可欠な時代である。人的・物的・価値的な多様性を積極的に受容し、そこでの学びの価値を共通資本として自らの生き方と社会全体の成長に活かすことが求められる。とりわけ乳幼児期の学びの場を青少年・成人やシニア世代が支援し、そこでの豊かな学びや温かい体験を自らの生き方に取り入れることである。そして、その学びの価値を区民全体が共有し合うことが本施策の本質的な具現化に資するものである。とくに台東区の場合、ここに「粋の文化」が根付いているものとうれしく思う。
- ・その意味では、各担当課が自らの粋を超え、「区民の学び実態・希望調査」（仮称）を実施してはどうか。今日的・将来的な区民意識を改めて理解しておきたい。この発想をする背景に、個々の事業がほぼ毎年の事業内容を固定化し（甘んじ）、数値的な目標等も同一の方向性にあるように思うところがみえる。これまでも多様な事業を展開しているだけに、区民自身も自らの体験にもとづく「新たな事業意識」を抱いているものと考えられる。そこには、想定外の発想や企画、将来展望が創出されてくるであろう。
- ・人口的にも若年層の約2倍の人員を要するシニア層のアイデアと活力の具体像を区自身（担当課）が積極的に学ぶことが不可欠である。そこには、台東区特有の豊かさと知性にあふれる人材、国内外にも通じる文化伝統、そして区民の精神である粋の存在などが将来的な色調として輝いていくように思う。固定的・物質的な活用と追求から、精神的・価値的な創造とその共有を追究することを求めたい。ここには、ある意味で「無駄な投資」とも思われることが、「未来への投資」に資することが少なくないと確信する。台東区の知的価値をすべての世代が共有することを願う。

小松 郁夫（常葉大学教職大学院教授）

【体験的な活動を通じた健やかな体づくりの推進】

- ・「体力の向上と健康づくりの推進」など、主要な施策は順調に推進し、その成果も着実に向上している。
- ・ほぼすべての学校・園で積極的に実施されており、安全かつ円滑に実施するために、人的な負担の増加は無視できないものの、今後もその継続は必要不可欠なものと考えられる。
- ・今後は、日常の教育活動との連携を意識し、自主的、自律的に体作りに励む児童生徒の育成などを奨励すべきであると思う。また、学校内外の機関や保護者、地域住民、それぞれの活動の関係者などとの連携、協働をさらに強めて、組織的で継続的な活動を活性化することも重要だと思う。
- ・健やかな体づくりという目標の達成のために、さらに新たな取組を開発するなど、次のステップを意識した新しい施策への挑戦や開発もやがて必要になってくるのではないか。

【将来への夢と希望を育むこころざしの育成】

- ・未来志向の非常に意義のある施策だと思う。他の地区にはあまり例を見ない世界にも誇れる歴史と伝統をもち、優れた文化の価値を育んできた台東区ならではの施策である。
- ・「こころざし教育」という施策もユニークで、副読本を活用するなどして、わかりやすく、実践しやすい施策となっている。
- ・この施策も、今日ではかなり地域と学校に理解され、普及が進んできた。次のステップでは、それぞれの活動を交流し、さらに質の高い活動に深化させていく必要が出てきた。関係者の広がりを推進し、多文化共生社会にふさわしい活動にしていくために、事業の新たな開発などを推進してほしいと思う。たとえば、国内外の関係者との交流を拡大し、台東区が持つ歴史的、文化的、あるいは宗教的な財産を将来への夢や希望とつなげる活動を期待する。異なる宗教間の相互理解などは、グローバル社会が抱える喫緊の課題でもある。慎重に課題を理解しつつ、基礎的な知識などを学ぶ機会は重要になってきたと思う。
- ・このテーマにとっては、未来社会をどのように把握するかが重要である。最近「21世紀型能力」の育成が熱心に論じられ、アクティブ・ラーニングなどの新しい学習スタイルが注目されている。「将来社会」をどのような思い描くか、その点への理解と展望を教育委員会自身が持つことも重要である。
- ・海外留学などは、さらに事業を拡大されてはいかがか。

【生涯学習の基礎を養う】

- ・ 少子高齢化社会がますます深刻化し、台東区においても重要な課題となっている。また、子育ての環境が変貌し、多様化し、格差が拡大しているのではないかとされている。施策の実施はもう待ったなしである。同時に、その成果は地域社会と区民に新しい夢と希望、エネルギーをもたらす可能性がある。
- ・ 「生涯学習の基礎を養う」と同時に、その基礎知識や能力を活用して豊かな人生を享受することが人生全体の充実につながる。事業実績も着実に向上しているようなので、さらに施策の推進を力強く推進されることを期待する。
- ・ 特に「家庭における教育力の向上」と「地域全体で子育てする意識の醸成」は重要である。子どもは親を選べないのであるから、保護者の保育や教育に関する理解力を高め、特に保護者自身が他者の支援や援助などを必要としていると思われる場合には、施策の PR や具体的な援助の活用などをより積極的に伝えていく必要があると思う。
- ・ 一方で、質の高い生涯学習を求めている人たちもいる。そのような区民にとっての生涯学習の基礎とはなにかを具体的に開発をし、台東区全体のリーダー役を期待してもいいのではないか。「基礎」とは決してレベルの低さを意味しない。到達目標が高ければ高いなりの基礎があるはずである。そうした施策の提供も必要だと思う。

【あらゆる世代の多様な学習を振興する】

- ・ 多様な各世代を意識した施策がさまざまに提供され、かつ着実にその成果を向上させていることが認められる。
- ・ 世代別に考えると、まず就学前の世代に対する施策が的確に提供されている。今後は子育て支援をいっそう活性化させるためにも、幼児教育の成果を活用して、より多様なメニューを提供してほしいと思う。そのためには、区内にある保育園や幼稚園との連携や協働が重要である。公立と私立の垣根を越えて、積極的な交流を奨励してはどうか。
- ・ 学齢期の児童生徒学生に対しては、それぞれの学校段階との連携を深めつつ、縦断的な世代間の交流による成果の向上も必要である。特に、これまで興味や関心が薄かった高校生や大学生をターゲットにした施策の推進はどうか。この場合、何も区内在住や在学の高校生や大学生に限定しなくてもいいかと思う。区内の数多くの施設や設備、文化資源を活用し、東京都全体、あるいは台東区を訪れる国内外の若者を対象として多様な学習を振興してほしいと思う。そのことはある意味では、台東区ならではの施策であり、台東区が積極的に推進する責任を有していると思う。

平成 2 5 年度 教育委員会の活動状況

平成 2 5 年度の教育委員会の活動については、教育委員会定例会・臨時会、学校・園への行事等の出席、区内各種団体の行事等への出席及び視察・研修などの活動を行ないました。

1 教育委員会委員

(平成 2 6 年 3 月 3 1 日現在)

役 職	氏 名	委員任期
委 員 長	樋 口 清 秀	平成 2 3 年 1 0 月 8 日から 平成 2 7 年 1 0 月 7 日まで
委員長職務代理者	高 森 大 乗	平成 2 4 年 1 0 月 8 日から 平成 2 8 年 1 0 月 7 日まで
委 員	末 廣 照 純	平成 2 2 年 1 2 月 2 5 日から 平成 2 6 年 1 2 月 2 4 日まで
委 員	垣 内 恵美子	平成 2 5 年 1 2 月 1 8 日から 平成 2 9 年 1 2 月 1 7 日まで
教 育 長	和 田 人 志	平成 2 4 年 1 0 月 8 日から 平成 2 8 年 1 0 月 7 日まで

2 教育委員会の会議

教育委員会の会議は、毎月 1 回開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会があり、教育に関する様々な議案について検討し議決を行うとともに、重要事項について事務局より協議及び報告を受けています。

(1) 会議の回数

- ・ 定例会 1 2 回
- ・ 臨時会 5 回

(2) 議案審議等の付議状況

- ・ 議案審議 3 5 件
- ・ 協議事項 5 9 件
- ・ 報告事項 1 2 6 件

(3) 議案審議の状況等

- | | |
|----------------------|-----|
| ・ 議会提出議案に対する意見 | 19件 |
| ・ 教育委員会規則及び規程の制定及び改廃 | 12件 |
| ・ 職員の人事に関すること | 1件 |
| ・ 教科書の採択に関すること | 1件 |
| ・ その他 | 2件 |

3 その他の教育委員会委員の主な活動

(1) 区立小・中学校・幼稚園、こども園、保育園関係

卒業式、式典、運動会、陸上大会、各種学校行事等への出席

(2) 区内各種団体等の行事関係

各種団体等が開催する大会、式典等への出席

(3) 視察・研修等

平成25年度教育施策連絡会（東京都教育庁主催）

〔内容〕

- ・ 平成25年度の教育行政について
- ・ 平成25年度教育施策の概要について

出前教育委員会

〔内容〕

- ・ 教育委員が学校・園に出向き、施設状況や運営状況を直接、把握するとともに教育委員会の施策・考え方・取り組みについて教職員と意見交換を実施
- ・ 平成25年度は、柏葉中学校・清島幼稚園・教育支援館・石浜小学校・忍岡小学校にて実施

第2ブロック教育委員会協議会（台東区、北区、荒川区、文京区）

〔内容〕

- ・ 各区教育委員会の重点事業等意見交換（北区にて開催）

平成 2 6 年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
報 告 書
(平成 2 5 年度対象)

編集・発行 台東区教育委員会
〒110-8615 東京都台東区東上野 4 - 5 - 6
電話 03-5246-1402 / FAX 03-5246-1409
メールアドレス : syomu-ed@city.taito.tokyo.jp